



ミニデイサービス便り No.4

1月18日(木) 曇り時々晴れ
参加者 利用者さん・・・6名(男性2名女性4名)
民生委員さん・・・2名他に送迎支援1名
ボランティアさんと見学者(利用希望家族)
各1名・スタッフまごころ8名

デイサービスも4回目を迎え、お互いに馴染みの顔になって雰囲気がとても和んできたようで、それぞれ利用者さん同士で話が弾んでいるようだ。

又新しい顔を迎えて6名の利用者さん。スタッフもそれなりに慣れてきとこともあって、ゆったりできるようになった。

利用者さんの一人一人が保育園の運動場を横切って遊戯室へ。途中、園児達からの声かけに思わず笑顔。スタッフも「まごころさん！」という園児の声に支えられているところが大きい。

朝の自己紹介の中で「母にもぜひ、すすめたいと思っておりますが、本人の意向もありますので・・・」という声に、利用者のFさん「おすすめて下さい。こんなに年寄りを大事にしてくれるところはないですよ」と盛んにPRして下さい。

「家族と折り合いがわるくて一人暮らしをしていますわ」とおっしゃる方があり「そのほうが気楽でいいがね」と自由な会話。

私達は、利用者さんを特別大事にしているわけではないが、お年寄りが主人公なのは確かである。

昼食の支度もすすんでやられる。包丁を動かしながら口もさかんに動く。今日の昼食は「おでん」だ。

ゆで卵を串に刺すお年寄りの目付きは真剣だ。午後は、園児さん(4才児)と保母さん組とお年寄り

とスタッフ組でペットボトルのボーリング大会。参加されないお年寄りもじっと見ておられ目が笑っていた。

午後のおやつは、民生委員さんからいただいたお寺さんのおさぎりの米の粉もちで「ぜんざい」。皆さんの支え合いでデイサービスが実現している。

今回は2月15日(木)です

◆シンポジウムに参加報告出口
「これからの保健・医療・福祉サービスの向上と連携促進に関するシンポジウム」から

去る一月二十日(土)愛知県医師会主催による右記のシンポジウムが開催され、テーマ「在宅ケアにおけるサービスの質的向上と連携促進」について、市町村、保健所、訪問看護ステーション、地区医師会、住民ボランティア、福祉関連ビジネスのそれぞれの立場から報告と意見が出されました。当センターは、シンポジストとして参加致しました。

◆連携には自由な意見と対等な立場での話し合いを
シンポジウムに先立ち、愛知県医師会社会福祉専門委員会とのこれまでの調査研究報告をされた名古屋工業大学教授の山本勝先生は、これからは運営主体が違ったところでの連携強化が必要であり、又その各々が自由に意見が言え、対等な立場で話し合えなくてはならない。

◆在宅介護で困った
また、福祉サービスのレベルを現在では量・サービスメニューの充実等の動詞のレベルであるが、これからは、心豊かなサービスの提供・質の向上等形容詞のレベルへ上げなければならぬと話されました。

◆在宅介護で困った
関係機関に駆け込もう
サービスの充実には自ら声を

このシンポジウムから、在宅福祉サービス充実に向け、各地域で各機関がそれぞれに努力をされていることが感じられました。

在宅療養支援システム事業の展開や訪問看護ステーション事業等の報告は、在宅ケアに向けての体制作りが進行していることが伺えました。ですから、住民は在宅介護

で困ったら、手遅れになる前に、とにかく関係機関に駆け込みましょう。

サービスの充実はある意味では住民の手にゆだねられていられると思われませんが、現在、住民の声が連携に、サービス向上に取り込まれているかは不確かです。

◆サービスは必要とする人の視点に立てるかどうかが、福祉の実情を広く公開し、問題をみんなのものに、連携の促進は、最初にかかわった人がどんな発信をしていくかがポイント。

◆サービスの質は人の質。サービスの質は必要とする人の視点に立てるかどうかが、福祉の実情を広く公開し、問題をみんなのものに、連携の促進は、最初にかかわった人がどんな発信をしていくかがポイント。

◆情報の確かな伝達が必要。住民参加型ボランティア団体への理解と育成及び連携促進を。

等をあわせてお話しさせていただけると恵まれましたこととは大変よかったです感謝しております。

◆ケア報告口◆

病院での介護の手助け依頼

最近、在宅ケアからの延長で病院での介護の一部を当センターに依頼されることがあります。

◆在宅で療養中の妻が再入院をされたAさんは、病院で毎朝、起床から歯磨き、洗面、朝食の介助までをこなす。嫁が朝の家事をこなし病院に来ると入れ替わり職場に出掛ける、という毎日が続く。自営業だから従業員にも事情を話し、理解を得ているが普通の職場では多分続きは出来ない。介護者には用が出来た時に食事介助の依頼をされた。

◆夫婦ともに病気を抱持の高齢者のご夫婦。在宅での支援は、当センターと公的ヘルパーさんが入っていたが、この度、ご主人様が長期入院となられた。「終日ベッドの生活で、せめて車椅子に乗って散歩したい」

◆勿論、奥様はお見舞いには出掛けられない病状です。

◆週一度、病院でのお話し相手と車椅子介助をと依頼があった。

◆場所を変えても家族の介護負担はなくなる。そして、お年寄りへのしわ寄せも多くなるばかりのような気がする。

12月会員登録状況	
協力会員	44人
利用会員	38人
賛助会員	116人
計	198人
12月活動状況	
活動件数	21件
活動人数	20人
活動時間	316.0時間